



ビオトープ・サロン ビオトープ管理士と徳島支部について

記者：編集担当

【新年のご挨拶に代えて】

皆様、新年明けましておめでとうございます。

本紙ビオトープ・ニュースの発行は、なんとか1年間継続することができました。これは偏に、ご多用中にもかかわらず寄稿にご協力いただきました方々のおかげと感謝し、厚くお礼申し上げます。

さて、新年を機に編集担当を交代します。そして、装い新たに「ビオトープ・セミナー」「ビオトープ・カルテ」「ビオトープ・サポート」のコーナーの追加を試みます。これらは、従前の「ビオトープ・サロン」「ビオトープ・ナビ」そして本紙「ビオトープ・ニュース」とともに、当会が目指す六つの取り組みです。既に実践を伴っているものもあれば、体制が未整備のものもあります。そこで先ず紙上編として試行し、会員はもとより、読者の皆様にも協力を得ながら充実を図りたいと考えました。

つきましては、この機会に、改めてビオトープ管理士と徳島支部についてご紹介し、読者の皆様には、当管理士の役割や職能及び当会が目指す取り組みをご理解いただき、また、管理士の皆様には、今一度、管理士を志した初心に戻って再確認いただき、近い将来に向けての事業展開の礎として、本紙をともに育てていただければ幸いです。

【ビオトープ管理士とは?】

以下に、ビオトープ管理士の概要を「受験の手引き：(財)日本生態系協会ホームページ」から要約し紹介します。

1. 自然と共存する美しい地域の創造を目指す最先端の技術者です。

自然や歴史、文化など、地域で受け継がれてきた貴重な財産を活かし、人と自然が共存する持続可能なまちづくり・国づくりを实践するための専門性と柔軟性を有する技術者、それが「ビオトープ管理士」です。

2. ビオトープ管理士には専門性の異なる「計画部門」と「施工部門」の2部門、2階級に区分されています。

(1) ビオトープ計画管理士：地域の自然生態系の保護・保全、復元、創出の理念や、野生生物等の調査技術を踏まえた、広域的な地域計画(都市計画、農村計画など)のプランナー。

(2) ビオトープ施工管理士：地域の自然生態系の保護・保全、復元、創出の理念や、野生生物等の調査技術を踏まえた、設計・施工に当たる事業現場担当の技術者。

(3) 階級：両部門ともに、1級は「業務における責任者レベル」、2級は「基礎的な知識のある技術者レベル」。

【日本ビオトープ管理士会徳島支部が目指す取り組み】

以下に、当会が目指す五つの事業と広報活動の紙上編についてご案内しますので、ご参加・ご協力をお願いします。

1. 交流・参画・連携事業(環境団体及び関係行政機関等との連携による相互支援): ビオトープ・サロン

意見交換や交流会の開催：紙上編は、様々な立場や視点から情報を交換し、環境問題の多面的な理解につなげる。

2. 環境教育等啓発事業(環境保全の意識増進及び環境教育の推進に関する支援): ビオトープ・セミナー

環境教育や体験学習の開催：紙上編は、必要な基礎知識を例示し、自己研鑽と保全活動の質的向上につなげる。

3. 整備と管理支援事業(ビオトープの保全と創出及び活用と維持に関する支援): ビオトープ・サポート

地域や学校での活動支援：紙上編は、実践を通じて得た課題や対策等の情報を共有し、活動の発展につなげる。

4. 調査・研究・研修事業(会員等の資質向上に関する調査と研究及び研修): ビオトープ・ナビ

わかりやすい指針の作成：紙上編は、Q & Aの対応及び環境の雑学を紹介し、ビオトープへの理解につなげる。

5. 生物多様性保全事業(生物多様性の保全と回復に関する実践と情報管理): ビオトープ・カルテ

事例の集積と分析評価：紙上編は、日頃見過ごしがちな身近な自然の情報を共有し、類似環境の保全につなげる。

6. 情報発信広報活動(ビオトープに関する情報の発信と広報活動): ビオトープ・ニュース

地域活動の情報発信：当面は、上記事業の紙上編を広く紹介し、ビオトープ活動の啓発普及と拡大につなげる。

ビオトープ・サロン 編集担当から交代のお知らせ

記者：編集担当

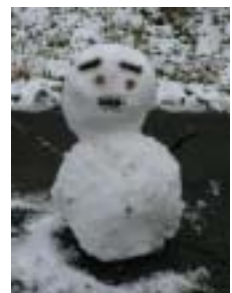
【ないものを探すより、あるものを見つめ直し…出来ないと嘆くより、出来ることをやる！】

皆様、こんにちは。新しく編集の担当となりました河野登子です。このようなニュースの編集は初めてで、力不足ではありますが、私の出来ることからやってみようと思っておりますので、皆様ご協力のほどよろしくをお願いします。

ご存知の方もおられますが、初めて読んだ！知らない…という方のために少し自身の紹介をさせていただきます。

私は、徳島で生まれ育ち、一步も外に出たことのない徳島人。社会人として公園設計に携わること10年。結婚という大きな転機が訪れ、福岡へ移り住む。今現在は熊本市に在住し、夫と2歳の男の子の3人暮らし。午前中にやんちゃな息子と近くの公園や、時にはお弁当を持参して森林公園などへ。午後は息子のお昼寝中に、家事をフルスピードで片付ける。そんな一般的な専業主婦の生活を送っております。家内中心の生活のため皆様とのズレがあるかもしれませんが、それも違う見方かなと、ポジティブにとらえていただければ幸いです。もちろん、あまりにもお見苦しい場合は、厳しくご指導のほどよろしくをお願いします。

さて、火の国熊本でも観測史上5番目の大雪に見まわれ、熊本市内でも雪景色が広がりました。窓から見える久々の雪景色についつい私も大はしゃぎしてしまいました。ちなみに右の写真は、昨年末、阿蘇にて親子で作った雪ダルマです。今後もこのような季節の写真などお届けできればと考えています。皆様もいとお写真が撮れましたら是非お寄せ下さい。



ビオトープ・セミナー 資格試験に挑戦して基礎知識を修得しよう!

ビオトープ管理士資格試験過去問題 出展：(財)日本生態系協会主催「ビオトープ管理士セミナー」のテキストより
無断転載禁止：本紙は財団法人日本生態系協会の許可を得て転載しています。 記者：編集担当

【生態学：正答は次号で紹介】

生態系の特徴について述べた文章のうち、誤っているものはどれですか。

1. 生態系は、無機的環境と生物が、相互に関連しながら成り立っている複雑な系である。
 2. 個々の生態系は、それぞれに独立した系として成り立っている閉鎖的な系であり、他の生態系の影響を受けることは無い。
 3. 生態系は、人の社会の存続を支える有用な価値の源泉となっている。
 4. 生態系は、常に一定の状態にあるのではなく、変動しながら存続している。
 5. 生態系を構成する生物種のうちの一種の絶滅が、生態系の崩壊につながることもある。
- (今後継続して、なるべく身近な問題を科目ごとに抜粋し紹介します。)

ビオトープ管理士資格試験とは？

以下に、管理士資格試験の概要を「受験の手引き：(財)日本生態系協会ホームページ」から要約し紹介します。

ビオトープ管理士資格は、(財)日本生態系協会が実施する資格試験に合格した後、認証されます。

ビオトープ管理士資格試験は、共通科目と専門科目で構成されており、各科目は次のとおりです。

1. 共通科目… 計画部門、施工部門を問わず共通で、3科目。

- (1) 生態学…生態系の構成要素、機能、生物と環境の間の相互作用等に関する事項。
- (2) ビオトープ論…ビオトープの理念、保護の考え方および方法等に関する事項。
- (3) 環境関連法…自然環境および野生生物の保護等に関する法制度(専門部門関連は専門科目で出題)

2. 専門科目…1部門につき1科目で、受験する部門によって課される科目が異なる。

- (1) 計画部門…都市計画や農村計画、地域計画、国土全体の土地利用計画等において、特に自然生態系の保護・保全、復元、創出を目的とした場合の構想、計画、設計等に関する事項と、それらに関する法制度。(ビオトープ計画管理士を受験する場合の専門科目)
- (2) 施工部門…河川や止水域、海岸、道路、農地、公園、里山、森林、庭等において、野生生物(動植物)の生息・生育空間(ビオトープ)を保護・保全、復元、創出する際の設計・施工全般に関する事項と、それらに関する法制度。(ビオトープ施工管理士を受験する場合の専門科目)

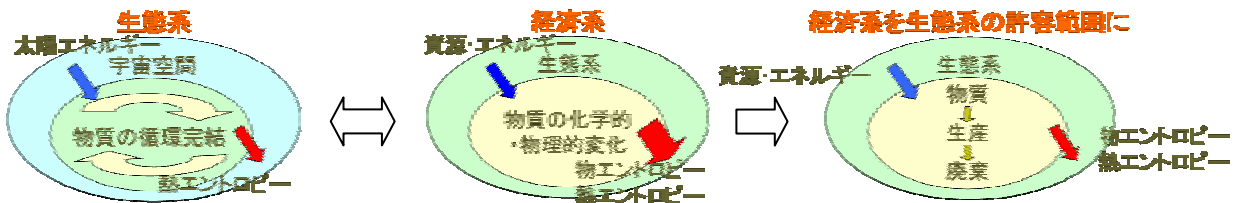
最近の受験者は、環境NPO構成員、国・地方公務員、外郭団体や地方自治体職員、企業退職者が増加傾向です。

ビオトープ・ナビ 雑学コーナー

記者：犬伏潔(会員)

【持続可能社会とは経済系を生態系の許容範囲内で質的に発展する社会：生態系は多様な生物が支える】

出典：2003年9月15日作成 by Y.TAIより改変



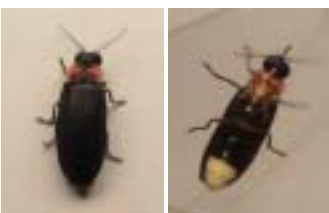
ビオトープ・カルテ みんなで集めるビオトープ情報

記者：榎本幸実(会員)

【ヒメボタルのビオトープを見つけました!】



ビオトープ・タイプ：河畔林(ヒメボタルのビオトープ)
 規模：30m x 20m(生息確認域)
 環境特性：エノキ・アキニレなどの落葉広葉樹林と自然草地
 周辺土地利用：採草地
 発見年月日：2008年6月3日
 発見時の状況：林縁で5~6個体が閃光を放っていた。



2007年に手前の草地で閃光を確認した。2008年は草地ではなく奥の林縁で閃光を確認、捕獲・撮影の後、元の場所に戻した。2009年は確認できず。
 この地域は扇状地で、かつては平地林が広がっていましたが、宅地や工場用地等の開発で減少の一途であり、また、カシが優先する照葉樹林へと遷移が進行している。
 ヒメボタルは陸生で、本来は落ち葉が積もる原生的な自然林が生息地といわれているが、平地の雑木林や竹林などにも生息する。ゲンジボタルに関心が寄せられる一方で、ハイケボタルとともに人知れず生息地が消失している。

編集後記

ビオトープに関するお役立ち情報はもとより、皆様の活動やお仕事、日常生活を通じて見たり感じたりしたこと、身近な自然の春夏秋冬や喜怒哀楽のご寄稿をお待ちしております。 ふるってご参加ください! 編集：河野登子